

# 多摩デポ通信 第9号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2009年2月3日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

HP <http://www.tamadepo.org/>

E-Mail [depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

## 「図書館資料の里親

### 探し」事業☆快調☆

—里親探しが成果を

挙げています

今年度は手始めに、市町村の図書館で不用になった全集・シリーズ等を未所蔵の他館に紹介することから始めていますが、これまで提供された全集は順調に里親館が見つかっています。

みなさん、ぜひ里親事業（詳細は、多摩デポHP参照）に申し込み・ご協力を！欲しい資料、提供して生かしたい資料がありましたら

### <11/25の里親さんへの

#### デイベックで背負って運んだ 配達ルート>

自宅→C駅→C中央図書館→  
C駅→H駅→H中央図書館→  
T駅→A駅→A中央図書館→  
A駅→K駅→KH図書館→  
M駅→M中央図書館→K駅→  
K駅前バス停→自宅

一筆書きの最短ルートは？



多摩デポにご連絡下さい。  
（4ページ「志賀直哉全集、あきる野市へ」も続けてお読みください。）

### 成立した全集本

- 「現代日本文学大系」筑摩書房
- 「有島武郎全集」筑摩書房
- 「志賀直哉全集」岩波書店
- 「岡本かの子全集」冬樹社（欠有）  
→欠本補充用として5館へ
- 「ジャン・コクトー全集」  
東京創元社（欠有）  
→欠本補充用として2館へ

## まもなく 多摩地域 図書館大会

多摩地域公立図書館大会  
2月12日から始まります。  
第一分科会は「広域連携と資料保存」を安江明夫氏が講演、木村稔氏がパネラーです。  
会員のみなさん、ぜひお集

まり下さい

多摩地域の市町村立図書館長協議会が主催する、東京都多摩地域公立図書館大会が「持続可能な図書館活動の展望に向けて」をスロガンに開催されます。今年は大規模開催の年に当たり、第一分科会、第二分科会は市民の当日参加は自由、事前申込みも不要です。

2月12日（木）の第一分科会は「多摩地域図書館の連携・協力・保存の現状と今後の展望」をテーマとし、共同保存問題にも大きく光が当たります。ほかに住民広域利用の問題、図書館相互協力（特に都立との関係）問題もあわせホットなパネルディスカッションが期待できます。

会場の国分寺市のいづみホールは、JR西国分寺駅下車南側の大型スーパーのアーケードを抜け歩いて2分。（開催要項を挟みます）

## 第四回多摩デポ講座の

お知らせ

### 公共図書館・

### 地域資料供覧の空気

全国の図書館を訪ね  
ながらの感想と希望

日時 3月1日

午後2時から4時30分

講師 平山恵三氏

会場 国分寺労政会館

参加費 500円

定員 50人

次回の多摩デポ講座は、  
研究者として図書館をお使  
いのヘビューザーの視点  
からのお話です。

講師は、多摩デポ副理事  
長でもある平山氏、信用金  
庫の源流を求めて日本各地  
を旅し、全国すべての都道  
府県を踏破という経験の持  
ち主です。初めての土地を  
訪れて、その地域のことを

知るにはまず図書館へ行く  
のが一番。そこでの職員と  
のふれあいや、思いがけな  
い資料に出会えた喜びなど、  
熱く語っていただきます。  
どうぞご参加ください。  
チラシを同封しました。  
まわりの方にも声をかけて  
ください。

### 第三回多摩デポ講座

開催さる

去る08年12月14日、立  
川市中央図書館を会場に、  
第三回多摩デポ講座を開催  
しました。

東村山市立図書館長木村  
稔氏をゲストにお迎えし、  
「『多摩地域における共同  
利用図書館検討調査報告  
書』を読む」と題して、N  
PO多摩デポ事務局長の齊  
藤誠一のインタビュー形式  
ですすめられました。

詳しい内容紹介は次号に  
なりますが、木村館長の熱  
気あふれるお話は参加者の  
心に強く訴えるものでした。  
当日は多摩地域の図書館  
長さんも含め23名の参加が  
ありました。多摩デポでは、  
これからも多摩の各地でこ  
の報告書を読む会を開きた  
い、と考えています。

3ページに町田市立中央  
図書館長守谷信二氏の感想  
を掲載しました。あわせて  
ご覧ください。

『多摩地域における共同  
利用図書館検討調査報告  
書』が日野市立図書館の  
ホームページに掲載さる

昨年3月にまとめられた  
『多摩地域における共同利  
用図書館検討調査報告書』  
東京都市町村立図書館長  
協議会、の全文が日野市立

図書館のホームページに掲  
載され始めました。

私たちが注目し、第三回  
多摩デポ講座で木村稔館長  
にお話いただいた報告書  
ですが、これまで各市町村  
図書館には2部ずつしか配  
布されず、利用者が自由に  
見られる蔵書登録も数市に  
留まっていました。

広く公開するため、平成  
20・21年度の東京都町村  
立図書館長協議会の会長市  
である日野市立図書館のホ  
ームページに掲載され見や  
すくなりました。

60ページ以上の厚さがあ  
りますが読みにくくはあり  
ません。皆さん、どうぞご  
覧になってください。

日野市立図書館

ホームページの URL

<http://www.lib.city.hino.tokyo.jp/>

## 里親探し

### 「志賀直哉全集」の巻

今回は、あきる野市中央図書館が里親さんになってくださいました。

K市立図書館に利用者の方が持ち込んだこの全集は、ほとんど手つかずかと思えるほどの美本。ブックケース・月報付で「自館のものを入れ替えてもいいのかという感じでした。」

とはいうものの、全巻揃っているし、さほど傷んでもいない。このままお返しすれば廃品回収業者の手にわたってしまうので「多摩デポで里親を探してもらおう。」ということに。

## 里親探し開始

里親探し担当の雨谷と吉田は、先日、檜原村立図書館に「現代日本文学大系」

をお届けに行く途中、改築したばかりのあきる野市中央図書館を見ていて、「あきる野市図書館は、まだ蔵書充実期といってもよいだろう。いつか、あの図書館にも里親になってもらえるケースが出るに違いない！」と思っていたのでした。

都立図書館の横断検索で検索してみると、果たして・・・「あきる野に、この全集ないわ！」

他にも、欠本のある館がありました。まず、あきる野に電話を試みたところ、「いたたく方向で館内に諮らせてもらいます。」との嬉しい言葉。

一週間後には、里親になつてもらえるとの返事をいただきました。こんなに早く実現するとはびっくり！

## あきる野市

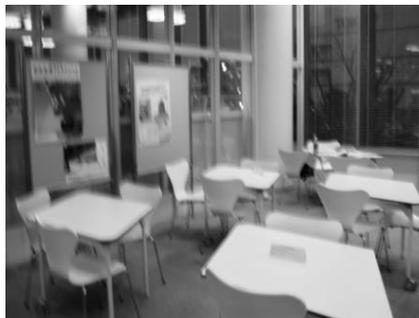
### 中央図書館訪問

07年8月1日開館のあきる野市中央図書館は、JR五日市線秋川駅からすぐのところ、秋川キララホールと隣り合って建設されています。市役所からも近く、市民の身近で親しみやすい施設になっていると思われました。

12月22日の運び込み当日は、平野館長さんも在館されていたので、少し多摩デポの活動を話させていただきました。「里親探し」にもご理解をいただき、歓迎してくださいました。

担当の古川さんに、「志賀直哉全集」を無事引渡し、今後もチャンスがあれば里親になっていただけそうとの感触を得て、ホッとしました。

この後、雨谷・吉田・田中の三人は、古川さんにピカピカの館内を案内してもらいました。



エントランスのすぐ左手。  
リサイクルコーナー



2階 ラウンジと雑誌コーナー

情報検索用端末と持ち込みパソコン用机は柱を活用して利用者どうしの視線を遮るように配置。館から渡されたUSBで起動します。



マップケースも、利用者が直接出し入れできるようになっています。



子どもたち用の小さなカゴ



「おはなしのへや」入口のタペストリーはボランティアさんの制作。窓から、外の町並がととてもよく見えます。



児童用デスクにも、ちゃーんと個別のライトがつけられるようになっています。

児童室の書架は側板に地元産の木材を使ってあたたかみを感じさせ、柱の周りや天井にはりめぐらされた沢山のミニライトは、「図書館は知の宇宙」とでもいわんばかりの華やかさ。そここに、秋川市立図書館・五日市町立図書館からの伝統を感じさせる、小さな心遣いと工夫が見える図書館です。

## あきる野市 デジタルアーカイブ

1階から2階への階段を上がりきった壁面に、多摩地区で盛んだった自由民権運動を象徴すると言われている「五日市憲法草案」の複製展示をはじめとした、あきる野市にまつわる「歴史・ひと・情報」を紹介するコーナーがあります。

インターネット

(<http://archives.library.akiruno.tokyo.jp>) や タッチパネル、マイクロフィルム、壁面展示を活用して、世代を超え伝えていきたい情報を公開していく取り組みは注目すべき図書館の活動のひとつといえるでしょう。

## 里親探し／さて

### 次はどこらへ？

どの図書館を訪ねても、共感と発見の喜びがあります。「多摩デポ通信」など私たちの活動を紹介するお知らせも職員の皆さんの目に止まっているようです。

受け渡せる資料が成立した時は、当面は、PRを兼ねて、できるだけ私たちが事務局員が持参したいと思っています。

## 国立市図書館協議会

「共同保存(利用)図書館」の実現に協力を」と提言

### ぜひ他の協議会も検討を

「多摩デポ」ではこれまで各市図書館協議会にあてて随時、資料等を送ってきましたが、08年10月、国立市図書館協議会から初めての応答がありました。この動きが他市にも広まっていくことを期待したいと思います。

国立市図書館協議会の『第16期図書館協議会報告と提言』では、「4 連携して發揮される力」の項で、『共同保存(利用)図書館』の実現に協力を」と題し次のように述べています。長いですが、以下、全文引用します。

くにたち図書館の書庫はす

でに満杯になっていて、近年受け入れた冊数とほぼ同数の資料が除籍(リサイクルないし廃棄)されています。その中には、多摩地域のどの図書館にもない資料が含まれている可能性があるのですが、チェックされていないのが現状です。

多摩地域全体を見回しても、多くの図書館の書庫が満杯で、書庫を拡充しようにも思うにまかせない現実があり、平成18年度には1万7千冊あまりの国立市分をふくむ計50万冊近くが全体で除籍されています。除籍はそれぞれの図書館まかせのため、多摩地域で最後の一冊となっても現在は確実な保存体制がありません。

一方で、図書館の検索システムが整備されるにつれて、過去に出版された資料への要

求が高まっています。2、30年前に出版された本を読みたい、あるいは調べるのに使いたいといった利用者が確実に増えています。地元の図書館に求める資料がなく、協力貸出によつて他館の資料を借り受ける人も多くなっています。

これまで多摩地域の公立図書館のバックアップは、都立図書館の役目でした。都立図書館が責任をもつて資料を保存し、協力貸出にも積極的に応じてきた間は、問題はまだまだ深刻ではありませんでした。しかし近年都立図書館は方針を転換し、区市町村立図書館を補完する役割を大幅に縮小させています。都立図書館は頼れる存在ではなくなっているのです。

そこで多摩地域の図書館関係者の中から構想が生まれ、都市長会が『広域連携の勧め』

の中で取り上げたこともあって、いま急速に機運が高まっているのが、「多摩地域共同保存(利用)図書館」設置への動きです。各図書館の書架から除かれた資料のうち、最後の一冊を「共同保存(利用)図書館」が保存し、利用者はそこに必要な資料があつたときには、地元の図書館をつうじて貸出を受けることができ、そうしたシステムを構築しようとしています。

これを立ち上げ運営していくためには、各自治体に相応の財政負担が生じますが、個々に保存システムを作るのが現実的でない以上、これが今考えられる最前の策と思われれます。国立市もぜひこの構想の実現に協力し、できればその推進役になつてほしいと思います。

(以上)

## 図書館総合展

### ポスターセッション出展

昨年11月26日(水)から28日(金)まで、横浜市のパシフィコ横浜で、第10回図書館総合展が行われ、「多摩デポ」は、ポスターセッションに参加しました。

展示会場内に、パネルボード1枚分のスペースをもらい、共同保存図書館という事業の仕組み、活動年表、現在の資料里親探しの紹介、設立総会での安江明夫氏の講演や「多摩デポ」講座の内容などを写真入りで紹介した。パネルを作り展示しました。

会期中は事務局員が会場に詰め、来場者への説明を行いました。パネル前に立ち止まり、熱心に聴いてくれる人も多く、活動を理解してもらった絶好の機会となりました。

最終日には、別会場でプレゼンテーションを行う時間が設けられ、齊藤誠一事務局長が発表しました。

今回の参加は、日外アソシエーツの星部長の尽力によるものです。星部長に感謝します。来年も参加してもらいたいという依頼を受けており、09年度もさまざまな活動を積み重ね、ポスターも更に工夫し参加したいと思えます。

### 書庫訪問 連載②

## あきる野市中央図書館

あきる野市中央図書館へ「里親探し」成立資料をお届けした折に、「自動出納書庫」を見学させていただいた。

収蔵能力39万冊の25万冊分は、3階に設置されたこの

自動出納書庫が担うという。開架14万冊(含・児童書)のバックヤードとしての収容能力としては充分で、主に、旧秋川市立図書館・五日市町立図書館時代に収集していた資料を収蔵しているようだ。雑誌は保存期間が短いので壁面の固定架に配架している(都立の逐刊センターが利用出来ていたので問題なかったが、今後は再検討の必要があるのかも・・・)。

どこの館でも同様だと思いが、OPAC(利用者用検索端末)を提供するようになって書庫資料の出納頻度は高くなってきているため、この自動出納書庫からの出納は毎日あり、有効に利用されているようだ。ただ、今のところ図書館の蔵書管理システムとこの自動出納書庫システムのデータが連動していないので、出納の



際、正確な操作とカウンターでの的確な引継ぎが必須というのが、キビシイとのこと。固定書架や集密書架と違って書架をブラウジングするところが難しいため、自動書庫内に収納した資料を熟知しないと、レファレンスに利用しづらいことだろう。今後、この点をどう克服していくかが課題になっていきそうだ。

## 第二回多摩デポ講座

木村稔さんの

お話を伺って

守谷信一

(町田市立中央図書館長)

昨年十二月十四日、第二回多摩デポ講座「多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書」を読む」に参加しました。同報告書の取りまとめ役をされた東村山市立中央図書館の木村館長に、その内容や意義、報告書への思いをお聞きするという趣旨です。

「共同保存」ではなく、あえて「共同利用」にこだわった理由、当初JR中央線高架下のスペースを活用する案がリアルに検討されたこと、一自治体当たり約二〇〇万円という負担金の額を心配したが、

行政経験の長い当時の羽村市の館長さんに、このくらいはかかって当然と言われて安心した話など、報告書刊行に至るまでのご苦労が目につかぶようなお話でした。

しかし、もつとも感銘を受けたのは、そうした話の端々に伺える木村さんの図書館への思いや姿勢です。鈴木喜久一元館長の背中を見て育ったという木村さんは、一時期自分なりの図書館像が見えなくなつて、図書館を離れていた時期があるそうです。しかしいま、人権の問題を中心に据えた図書館運営を心がけている。それは東村山市の地域資料として特別な意味を持つ、国立ハンセン病資料館の存在に負うところが大きいということでした。図書館の仕事は人権問題そのもの。したがって、図書館長の日々の判断が

大変大きな意味を持つし、それだけに恐ろしい仕事だとも言われました。その通りだと思います。

また、時代や社会状況によつて迷うことはあつても、図書館の収集、整理、保存、提供という仕事は、いつでもやらなければならない普遍的な仕事だとも話されました。自治体が図書館を設置するということは、自治体を超える仕事をその内側に抱え込むことだから、かつて東村山市やいくつかの図書館が連携して行った地方出版物発掘の運動のように、多摩のアイデンティティとして、共同利用図書館の問題に取り組むべきではないか、と講演を締めくくられました。

図書館長としては私より先輩ですが同い年です。多摩に木村さんのような館長がおら

れることに、大きな勇気を与えられる思いがしました。当日は、他にも数名の図書館長さんが参加されていました。館長同士、職員同士のつながりを作り出すためにも、こうした機会が大切な役割をもつように思います。

木村さんはもとより、多摩デポの事務局の皆さんに、心からお礼を申し上げます。



# 多摩デポブックレット

## 刊行準備中

共同保存図書館の実現に向けて、「知は力」、「資料を保存し長く活用する事について」、「表舞台から消えたり、散逸したコンテンツを再度よみがえらせていく事について」、「図書館の共同事業化という事について」など関連した学習を進めていこうと多摩デポ講座を開きました。

この講座が好評。毎回大勢の参加者を迎えています。そこで、残念ながら参加できなかつた方・もう一度聞きたいという方のために、私たちだけの記録として残しておくのでなく、印刷物を発行することにしました。名づけて、「多摩デポブックレット」。

第1号は、現在印刷準備進行中です。まずは、法人

化記念第一回総会での安江明夫さんの記念講演「公共図書館と協力保存 ―利用を継続して保証するために―」です。次号の「多摩デポ通信10号」の発行時には、もう刊行のご案内ができる予定です。

第2号、第3号もテープ起こしなど着々と作業が進んでいるところ。どうぞご期待ください！

### 里親探し

#### 「志賀直哉全集」

#### 仲介者インタビュー

今号の4面に載せてもらいましたが、市民から寄贈された志賀直哉全集を活用していただける図書館があつて良かったのです。

日々、図書館に勤める私（たち）はたくさんの本の寄贈を受け取っています。

新しい本や取り替えられるきれいな本は再び図書館の蔵書として利用されますが、それ以外は、後ろめたさを残しながらも処分してしまふことになりまふ。

捨てられない性格の私は事務室の机の下に取り替え用にたくさんの寄贈本を突っ込んでいますがそろそろ限界です。

全集類は茶色に変色した古いものをいただくことが多いのですが、今回のものはきれいなものだったので、無駄にならなくて大変嬉しです。(K市KK)

### イベント情報

#### 小平図書館友の会

第11回チャリティ古本市

4月11日(土)

10時～17時

12日(土)

10時～15時

中央公民館ロビー

### 個人会員

いよいよ百人突破

### 会の現勢

#### ●会員

(個人会員100名)

(団体会員3団体)

#### ●賛助会員

(個人31名)

(団体2団体)

5/09年1月31日現在

旧「共同保存図書館・多摩」の会員で、またNPO法人会員へ移行していない方はぜひ、「特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩」へ、会員登録をお願いします。今号「多摩デポ通信」は、旧組織の会員の皆さまにもお送りしました。

#### ※年会費

・正会員(個人・団体) 五千元

・賛助会員 一口 一千元

(個人一口以上団体五口以上)